

戦艦「金剛」とヤーロー式ボイラー



戦艦「金剛」（建造時は巡洋戦艦）は、日本が技術を導入するために、外国に注文した最後の主力艦¹です。

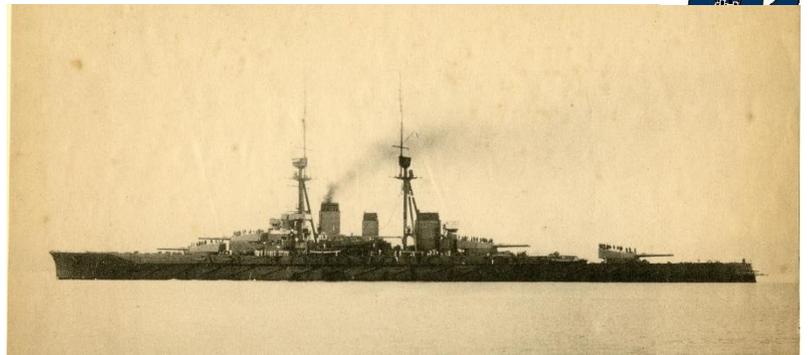
「金剛」は、大正2（1913）年、イギリスで竣工²しました。当時「金剛」には重油と石炭を燃料とする「ヤーロー式ボイラー」が36基、載せられていました。ボイラーは、艦を動かす力（エネルギー）をつくりだします。

大和ミュージアムに展示している「ヤーロー式ボイラー」は、戦艦「金剛」から取り出された後、暖房用ボイラーとして平成5（1993）年まで使用されていたもので、近代化産業遺産³、日本遺産⁴に認定されている資料です。



ヤーロー式ボイラー（大和ミュージアム）

「金剛」をつくる時、日本からイギリスへ技術者を送って技術を学び、日本の造船技術は飛躍的に向上したよ！



戦艦「金剛」

- 1 戦艦など、防御と攻撃にすぐれた主力となる艦のこと。
- 2 工事が完成し海軍の艦として編入されること。
- 3 日本の産業の近代化に貢献した建物や機械などで、将来のこしておきたい大切なものに認定されるもの。
- 4 地域の歴史的魅力や特色を通じ、我が国の文化・伝統を語る「ストーリー」を認定するもの。